NPO 法人　京都丹波・丹後ネットワーク

2020 年度事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

目次

２０２０年度　総括……2
NPO 等団体活動支援事業 ……4
情報発信支援事業……8
継続支援型フードバンク事業……１１
多文化共生事業……１３
外国人への防災支援……１６
パナソニック基盤強化助成……１８
コロナ対策給付金関連……２２
１０周年記念式典……２３
組織概要 ……２６

２０２０年度　総括

2010 年 6 月 9 日、NPO 法人　京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO 法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン（収益事業）などを軸に、人と人、団体と団体（NPO、地域、企業、行政、大学など）のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動を始めてから今年度で１０年を迎えました。
しかし、２０２０年度はコロナに翻弄され、これまで当たり前に行ってきた交流等の事業が出来なくなり、コロナ禍でこそ必要な社会的弱者への支援をいかに実施していくべきかを模索する一年でした。

今年度の概要

コロナ禍において、まちづくり講座や多文化交流等の実施が難しくなる中で、このような時だからこそ求められる支援に対して私たちはどう応えるべきかを試行錯誤しながら様々な支援を実施してきました。昨年度から実施してきた事業については大幅な変更を余儀なくされ、その中でもただ予算を使い切るというのではなく、どうすれば助成していただいたお金を活かすことが出来るのかを考え、小さな取組みを重ねることから始めていきました。外国人に対する支援については、新たな助成金を受けてコロナ禍での支援の在り方を模索しながら、小さな交流の場を創出することで効果が得られる支援と、出向いて孤立を防ぎ、傾聴の中で課題を聴き出す支援の２つに分けて実施しました。それに伴い、１２月にはフードバンク事業を立ち上げ、外国人や外国にルーツを持つ子どものいる家庭、シングルマザー・シングルファーザー等の家庭、一人暮らしの大学生などに定期的に配布するなかで、様々な支援に繋ぐことが出来ました。事業計画とは異なる内容となりましたが、事業の中で大学生や外国人の支援者にボランティアやアルバイトとして参加いただけたほか、また、福知山社会福祉協議会などに交流の場やフードバンクなどでご協力いただくことができ、人と繋がる大きな一歩を踏み出せたのではないかと思っています。

今後の活動

次年度においては、今年度コロナ禍で実施できなかったまちづくり講座や防災についても、工夫の中で実施していきたいと思っています。また、改めて感じた人の死への向き合い方を、寺の住職さんや医療介護に従事されている方などからお話をいただき、誰もが希望を持って生きられる社会にしていきたいと考えています。さらには、地域をデザインする事業（情報発信支援）や外国人に対する支援などについても、コロナ禍を意識した継続の仕方を考えながら、増加する外国人の支援や高齢者の介護等の問題、子どもの貧困問題、障害のある人の環境整備などを地域の課題としてとらえ、地域を中心に行政や大学、NPO、企業がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって共に支えあう地域づくりを目指していけるような支援が出来ればと考えています。
また、地域の新たな課題である、情報弱者・IT 弱者への支援の一環として、zoom 講座やパソコンを使用しての申請が多くなった各種給付金の申請援助などを高齢者や外国人などに対して実施しており、今後もさらに支援体制を整えていきたいと思っています。このように、どのような分野においても、私た

ちＮＰＯは「出来ない理由ではなく、どう変われば出来るのか」を考えられる組織でありたいと思っています。
最後に、昨年度パナソニック様の支援を受けて、実施してきた組織診断・組織基盤強化については、残念ながら継続支援は受けられませんでしたが、計画を見直しながらも、着実に基盤強化につながるよう中期計画策定等に向け努力していきたいと思っています。

財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。ここ数年のように人件費の出る助成事業がほとんどない中、人を雇用し税金や社会保険等を支払っていくことはとても困難であり、なんとか事業を継続するためには収益事業中心にならざるを得ず、本来のミッションとのバランスをいかにとっていくかについても考えざるを得ません。
さらに、小さなしかも中間支援中心の NPO では、行政からの委託事業や補助金などは難しく、ともすれば競合してしまうこともある中で、民間の助成を受けられるだけの力をつけること、さらには他団体にも助成金情報を流すだけでなく、提案できるような力をつけることが重要だと思っています。
また、クラウドファンディングなどの新しい資金調達も考えていく必要があると思っています。
雇用を継続しながら NPO を運営することは確かにとても難しいことですが、その中で生まれる人との出会いがきっかけとなり、地域に新しい風を吹かせることが出来るという確かな何かが見えてきているように思います。
今年度は持続化給付金や家賃給付金など、コロナ関連の給付金をいただき、何とか事業を継続することが出来ました。しかし、今後もコロナ禍が続く中で、給付金を当てにするのではなく、コロナ禍の支援をさらに充実させつつ、新たな資金確保の方法を試していきたいと思っています。

今年度においても、近畿労働金庫様の笑顔プラスの寄付先団体を継続していただき、ご協力を得ながら事業を進めることが出来ましたこと、そして社会貢献預金（笑顔プラス）の預金者の皆さまの温かいご支援に感謝し、地域のために何が出来るか、何が必要かを感じながらいっそう活動を進めていきたいと思っています。

NPO 等団体活動支援事業

事業の種別…ＮＰＯ等支援（NPO 法人、自治会、社会福祉法人等）

組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

＜概要＞

・NPO 活動及び企業、個人事業主等に対する支援事業

〇法人立ち上げ相談（２団体）

内容：今後事業を実施するにあたり、どのような法人を選択すべきかの相談⇒メリット・デメリットを表にして説明

〇定款変更と新規作成（3 団体）

内容：任意団体の定款作成依頼及び株式会社（非営利型）の定款変更についての相談

〇労務相談

内容：コロナ禍における休業手当等の相談、アルバイトを雇用するにあたっての注意点（契約の関係、最低賃金、所得税、関係機関への報告等）の相談（各１回）

〇助成金等申請・報告等支援　申請補助・相談・フォロー

内容：

①子どもへの支援活動団体の依頼により、助成金情報や申請の方法、企画内容、報告書作成などを支援またはアドバイスした。（３件７回）

②外国人や高齢の個人事業主に対して、持続化給付金、家賃給付金等の給付金申請の支援を実施。また、農事組合法人への申請支援も実施。（3 件）…詳細は２０ページ

〇IT 関係の相談

内容：パソコン環境の整備（3 件）、SNS の設定と使用方法の説明等（7 件）

〇人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

内容： 北近畿地域連携会議のメンバーとしてネットワークを作っていくとともに、フードバンクや外国人支援などの事業を通して、福知山社会福祉協議会、地域の婦人会、日本防災士会など多様な主体と互いに連携していける仕組みづくり、人と人をつなぎ新たな支援の創出などを行っている。なお、たんたん X 交差点については、コロナ禍で飲食を伴う講座・交流の実施は控えた方が良いと考え、現在休止している。

・災害時連携ＮＰＯ等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨 ……近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な

専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携ＮＰＯ等ネットワーク」の設立及び充実を図る。

活動内容

2020 年度は京都府では大きな災害は発生しなかった。

また、コロナ禍で災害時連携ＮＰＯ等ネットワークとしての活動はほとんど出来なかった。そんな中でも 10 月 10 日に「ｗｉｔｈコロナ時代における災害時の助け合いや危機管理を考える」シンポジウムをリアルとＺＯＯＭによるハイブリッドで開催した。

この様子はＹｏｕｔｕｂｅにもアップされ見ることができる。

https://youtu.be/PuxKdVLiUAw

成果と課題

京都北部では幸いにもコロナ以外の大きな災害は発生しなかったが、シンポジウムを開くことにより、今後発生するであろう災害に対してどのように対応すべきかの議論が出来た。

実際には避難が必要となった場合に本当に密を避けることができるのか、シミュレーションを重ねる等の検証が必要となる。

その他支援事業

○Web ページ及び Facebook ページによる情報発信（HP アドレス:http://www.kyoto-tantan.net/）

Web ページの内容：新事業や事業報告、事業計画などの基本事項を掲載

Facebook ページの内容：NPO 法の改正内容、ＮＰＯ主催のイベント案内と報告、支援 NPO の情報など日々の話題を中心に情報発信

新型コロナウィルス禍に対しては、ＮＰＯ等に対する給付金の案内なども掲載。

また、外国人の個人事業主などにも情報を提供。

○ラジオカフェ出演、毎日フォーラム掲載等による情報発信

京都三条ラジオカフェへの出演や当 NPO の事務所で地域の課題などをお話しさせていただいた木村俊昭様の毎日フォーラムへの連載記事に取り上げていただくなどにより当 NPO の活動をご紹介いただいた。

私が、特に注目しているのが、ものづくりによる地場産業振興のほかに、NPO 法人京都丹波・丹後ネットワークの活動である。今回、同法人の理事等に面会し、現在の活動内容をヒアリングした。設立目的は、ＩＣＴなどを利用し新たなネットワーク構築し、丹波・丹後地域に居住のすべての住民が各自の能力に応じ、共に産業活動に従事するためのさまざまな活動を支援すること。

会議はすべて、時間短縮ということから、「GO」か「STOP」かのいずれかのみとしているという。現在の主な活動内容は、外国人労働者の子どもたちへの日常生活の対応、水害等による支援体制を重視している。そのほか、人口減少対策として、まちを愛し、熱意のある方など、「ひとの質」を重視する定住・移住の促進や、地域のシンボルといえる小学校跡地の利活用を挙げている。

同市は、農業を基幹産業の一つして、生産地からの脱却を目指して、地場とうがらしの農林水産省の地理的表示（ＧＩ）保護制度の取得など、まちをブランド化しつつ、大阪市や京都市、神戸市に近いという地の利を生かし、高付加価値化や６次産業化を推進している。

地域創生とは、(1) 産業・歴史・文化を掘り起こし、よく研（みが）き、世界に向けて発信するキラリと光る「まち育て」(2) 未来を担う子どもたちを愛着心を持つよう育む「ひと育て」――が最重要と考える。福知山市は実に魅力的な歴史や文化を有し、高校６校、大学１校や、有数の工業団地などの産業基盤を持つ。

今後、情報共有、役割分担、出番創出の全体最適なストーリーの策定とその実践ができれば、大いなる可能性を秘めたまちである。「五感六育?」による「職育」をはじめ、地場産業振興や未来産業創造など、地域創生とＳＤＧｓ、人財養成プログラムの策定と実践に、今後とも協力・応援していきたい。

～毎日フォーラムより抜粋～

支援事業全体を通して

事業成果：

- 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、ここ数年そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共に企画内容の提案やネットワークづくり、コーディネートなどハブ的機能を主体としたものに変わってきたが、情報発信支援や会計実務についてはNPO法改正後、未だに法人としての責務（所轄庁への報告・法務局への登記・納税・社会保険加入等）を果たしていない団体も多くみられる。今後民間の助成金を得るうえでも事業を継続して行ううえでも、NPO として信用を得るための組織診断・組織改革は必須となり、支援事業の重要性は増してきているように思う。
- また、法改正などに伴う実務を理解されていない NPO 法人も少なくないため、HP などを通して改正のポイントや実務などを掲載するとともに、相談があれば応じるようにしている。
- 引き続き、府やパートナーシップセンターなど行政機関が行う支援と役割を明確に分け、地域で重要な活動をされている NPO（自治会なども含む）や社会福祉法人などが十分力を発揮できるよう、受益者である市民を意識した支援を行っていきたい。

反省点、改善可能な点、課題など：

- ここ数年同様の課題ではあるが、NPO 等支援予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効性あるものにできるかが大きな課題だと考えている。その中で、NPO などの支援については特に情報発信、助成金申請、分析、コーディネートに力を注ぎ、さらには非営利組織の評価を意識した事業展開を考えていく必要がある。それでも見過ごされている課題に対しては、京都北部（とりわけ福知山）の未来にとって必要な事業を自ら作り出すことも考えていかねばならない。その中で、同じ地域の活動団体、ＮＰＯ法人はもちろんのこと、きょうとＮＰＯセンターなどの協力も得ながら、ＮＰＯ同士の連携やＮＰＯ法人のさらなるレベルアップを目指したい。
- また、新型コロナウィルスに対する対策（補助金・助成金・給付金申請やＢＣＰの策定など）についてもさらに詳細な情報を提供するなどの対応が出来るよう体制を整えたい。

情報発信支援事業

概要
　収入：789,772 円

1　事業の趣旨・特徴

＜事業への想い＞
地域（企業）情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。
さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

＜事業背景＞
【京都北部の課題と事業の背景】
・京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。
また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのＨＰを持っていても、活用・更新されていない、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。
とりわけ、NPO にあっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしていても、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。
特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。
さらに今年度においてはコロナの影響から zoom を活用する等の場面が増加しているが、設定の方法や使い方などを知らない組織や個人が多く、状況に応じた支援を実施することが必要である。

2　事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン
【特徴】
ＨＰやＳＮＳをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につなげるよう、①コンテンツの内容（何を誰に何のために発信したいのかなど）　②更新のしやすさ　③ＳＮＳとの連動　④スマホ対応　⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のＨＰや FB ページ、ロゴ等を作成

【年度実績】

○地域活動団体・企業等のＨＰ作成、更新…２件（100,000 円）⇒うち１件は継続中

○HP 年間サポート・保守…1 件（年間契約　192,000 円）

○HP・フェイスブックページ更新指導・補助…5 件（無償）

○ふるさと納税返礼品サイトへの更新補助 4 月～10 月…1 件（年間契約　70,000 円）

○じゃらん掲載イベントの連絡調整等 4 月～10 月…１件（年間契約　70,000 円）

○チラシ・パンフ作成…1 団体（55,000 円　うち外部委託 28,350 円）

○名刺…1 企業（92,356 円）

○地域の絵葉書販売…あやべ特産館（1,360 円）

○ラミネート加工…２団体（1,200 円）

○映像・音響等テスト等…1 団体（30,000 円）

○講師等：雲原地域において住民向け zoom 講座（30,000 円）参加者 25 名程度

○中丹振興局において市民団体向け zoom 講座（契約　97,856 円）

○京都生協の組合員様向けオンラインファシリテータ講座（50,000 円　うち講師料支払 30,000 円）

<u>合計 789,772 円</u>

S.S.G ホームページ

ふくちやま CAP　子どもの権利条約啓発パンフレット

映像・音響テスト（川合小学校）

映像・音響テスト（川合小学校）

Zoom 講座（雲原地区）

オンラインファシリテータ講座	Zoom 講座（中丹振興局）	Zoom 講座（中丹振興局）

３　事業体制

運営スタッフ（常勤）…2 名
ボランティア…２名

４　事業の成果と課題

今年度においては、地域の社会福祉協議会のＨＰ作成（継続中）や企業の HP の作成、任意団体のチラシ作成などの情報発信支援を行い、コンテンツ作りについても支援を行ってきた。
また、コロナ禍で ZOOM 等オンライン関係の支援も増加している。
一方、数年間実施してきたふるさと納税返礼品サイトへの更新補助やじゃらん掲載イベントの調整等の契約が、コロナ禍で打ち切りとなった。
コロナ禍での情報発信の支援をどのように実施していくか、激動する社会にどのように対応していくかが求められている。

継続型フードバンク事業

事業名：たんたんフードバンク事業
実施時期：2020 年 12 月～（継続）

1　事業の趣旨

＜背景＞
昨年度末からのコロナ感染の広がりにより、ひとり親家庭、アルバイトを打ち切られた大学生、感染を恐れ孤立する高齢者や外国人等、社会的弱者がさらに追い詰められている実情がある。

＜目的＞
コロナ感染のみならず、災害時や平時においても見守りや傾聴を必要とする高齢者やひとり親家庭、外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）等に定期的に食料を届けると共に、近況等を傾聴し、場合によっては課題を聴きだし、支援を行う。また、一方的な支援にとどまらず、高齢者の知恵やそれぞれの国の知恵等を教えてもらい、互いに協力し合える社会を目指す。

2　事業の概要等

＜事業の内容＞
地域の企業や農家、個人などに SNS、HP 等により広く協力を依頼し、米、乾物、野菜などを寄付していただき、必要としている家庭や個人に継続配布し、傾聴等により孤立を防ぐ。
将来的には、日用品、教材や絵本なども寄付の対象としていきたい。
対象者は、次のとおり
①支援を必要とする外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）
②ひとり親家庭、子どもの多い世帯
③一人暮らしの大学生
④困難な状況を抱える高齢者・障害者など
＜連携＞
福知山市社会福祉協議会、ふくちやま CAP

3　事業体制

運営スタッフ（常勤）…2 名　（非常勤）…8 名　（ボランティア）…5 名

4　事業の成果と課題

京都新聞に取り上げていただいたこともあり、市民の方や飲食店、福知山市社会福祉協議会等から米、パスタ、缶詰、レトルト食品、ラーメン、調味料、野菜等、たくさんのご寄附をいただいた。
また、市外や府外の方からもご寄附をいただけた。（１２カ所）

日系ブラジル人、日系ボリビア人、フィリピン等をルーツに持つ子どものいる家庭、子沢山なシングルマザーの家庭、福知山公立大学の学生などに、寄附していただいた米等を配布。（継続配布…7家庭、交流会等での配布…延べ３７人）
コロナ禍で最近伺えなかった家庭にはこちらから配達し、傾聴と課題を聴き出すことにより信頼関係を築き、今後の支援につなげられた。
課題としては、この事業を実施する中で、生活必需品の購入に困っている家庭や学生等が多いことが分かり、食糧以外の物資についてもマッチングできるような体制づくりをしていきたいと考えている。また、寄附した人の気持ちともらった人の気持ちが互いに伝わるような方法も模索中である。

＜写真＞

お世話になった方が大阪から	市民の方・社協さんからはお米	ﾎﾟﾘﾃｸｶﾚｯｼﾞ京都の先生から
中国料理シノワ・縷縷様から	市民の方から	匿名希望の方からも
福知山公立大学の学生さんへ	外国籍のご家庭へ	多文化共生交流で活用

＜記事＞

福知山の市民団体やNPO
困窮学生らに食料支援の輪
食げない
フードバンク 外国人家庭にも配る

多文化共生事業

新型コロナウイルス感染下における
外国にルーツがある人々への支援活動応援助成
三菱財団 × 中央共同募金会

事業名：外国にルーツがある人達へのトータルサポート事業（三菱財団×中央共同募金会助成）
受託期間：２０２０年９月～２０２１年９月（次年度へ継続）
予算額： 2,100,000 円（うち今年度振込額 1,400,000 円　使用額 1,150,943 円）
※多文化共生事業は、皆様からのご寄附により、三菱財団×中央挙動募金　外国にルーツがある人々への支援活動応援助成事業の助成を受けて活動しています

１　事業の趣旨

＜活動（事業）に取り組む背景＞
５年前から児童館（市の施設）との協働により外国にルーツのある人や外国人労働者等を支援してきたが、昨年度で終了し、児童館という居場所や相談の場が無くなってしまったことに加え、コロナの影響により毎月一回程度開催してきた交流会も３月以降実施できていなかった。また、ステイホームの呼びかけにより、配偶者間のＤＶや子どもへの虐待が増加したという声も聴かれる。コロナ禍においては、ひとつの場所に外国人が集まることで地域の人たちに冷たい視線を浴びせられることもあり、住民への啓発を行いながら、コロナ禍での支援の在り方及び今後の支援方法の転換を模索し、多様な人や組織による総合的長期的に支援する仕組みづくりが急務である。

＜活動の目的と課題＞
〇目的
外国にルーツのある人がそれによって差別を受けることなく、安心して安全に暮らせる地域にすること。他の住民との関わりにおいて、言語や文化等の違いが壁ではなく強みや誇りになり、互いが協力し合えるような地域にしていくこと。そのための仕組みづくり。
〇課題
・　コロナ禍における居場所・相談の機会を創る
・　地域で暮らす様々な人たちとの交流の場を創る
・　貧困による教育の遅れ、食・病等の不安、情報、自然災害の際の対応への支援
・　多様な人が支える、多角的・総合的・長期的な支援体制の確立

２　事業の概要等

＜実施内容＞
１　外国人及び外国にルーツのある人たちの支援
①交流の場づくり：月１回の交流の場を創設。
⇒コロナ禍で緊急事態宣言が発出されるなか、今年度についてはより支援が必要な人に呼びかけることで人数を制限し、回数も１回としたが、今後落ち着くことがあれば、より多くの外国人等に広

報したい。交流の場では、日本語と各国語を勉強する時間等も設けているが、いずれは本格的な語学教室の開催を目指したいと思っている。
②相談機会の創出：専門家とスタッフ２名体制の月４回の相談日・相談のあった内容の検討日を設け、困りごと（医療、教育、ビザ、生活等）に対して、内容ごとの専門家とつなぎ、あるいは一緒に手続きに行くなど、解決に向け寄り添っていく
⇒相談日に相談に来るケースというのはコロナ禍でもありほとんどなかったが、見守りの中で子育て鬱や孤立、日本語や学習支援の要望、新たな職探しなどの課題が見つかり、都度検討して対応。
③フードバンク：企業や市民等に食料の提供を呼びかけるほか、福知山市社会福祉協議会等と連携し、必要な人を把握し届けるための仕組みづくりを行う。
⇒たんたんフードバンク事業として外国人や外国にルーツのある子どもを持つ家庭以外にも、コロナ禍で困難を抱える親子や大学生に配布。
④見守り：関わってきた人たち、子どもたちを長期間にわたって見守っていく。その中で新たな課題が見つかった場合は、②と同様解決に向けて動く。
⇒フードバンクの食料配布時に、見守りと傾聴を行い、社会的弱者の孤立を防ぐ。
⑤教育の場の提供：日常会話程度の日本語教室、学習の遅れへの支援、進学を考えている子どもへの支援
⇒現在日本語習得等支援を希望するフィリピン出身の学生や、ベトナムの技能実習生などがおり、それぞれにあった学習支援を実施。また、外国籍の親を持つ生徒が不登校になり、地元の大学生と海外在住経験のある人に理科・英語等の学習支援を依頼。さらには、フィリピン・ベトナム・ボリビアの人たちから英語やタガログ語、ベトナム語、ポルトガル語（スペイン語）等を教えてもらい、こちらからは日本語を教える試みを実施している。

２　より多くの外国人及び外国にルーツのある人たちを総合的長期的に支援できる体制づくり
今年度においては、体制の素案作りを、支援者などを交えて行った。また、三田市国際交流協会に視察に行き、支援方法や運営などについてご指導いただいた。
さらに、ダイバシティ研究所の田村太郎さまにお越しいただき、体制づくりに対するアドバイスをいただいた。

３　事業体制

運営スタッフ（常勤）…2 名　（非常勤）…8 名　（ボランティア）…5 名

４　事業の成果と課題

成果としては、次のようなことがあげられる。
〇大学生など若い人たちや様々な職業の人たちがボランティアや非常勤、参加者として様々な場面で支援してくれるようになったこと
〇フードバンクを活用することで、より多くの家庭を見守り、課題を共有できたこと
〇それぞれの課題に対して、組織で検討する体制を作れたこと

〇福知山市社会福祉協議会の会場を交流会等でお借りすることが出来るようになったこと

一方、次のような課題があげられる。

〇外国人や若い人の支援者を増やす

〇市民への外国人支援についての理解

〇関係機関等との連携の強化と継続するための資金作り

＜写真＞

ミニミニクリスマス会	みんなで記念写真	茶道体験　難しいね・・・
キックボクシング観戦	ポルトガル語で会話？？？	ボリビア料理のエンパナダ
ﾍﾞﾄﾅﾑ技能実習生と婦人会へ	料理店から頂いた白菜を使って	みんなで作るところから楽しむ
早くできないかな？	シェフの手さばき最高	ボリビア料理ピケマチョ

外国人への防災支援

事業名：防災士と行う地域の外国人と支援者向け防災訓練事業（前年度からの継続事業）
予算（助成額）： 380,000 円
受託期間：２０１９年８月～２０２０年７月（前年度から継続）

１　事業の趣旨

＜事業の背景＞
福知山では毎年のように水害が発生し、その際の避難場所、支援物資、どのような支援があるのかなどの情報が、言葉の壁により届かないケースが起こっている。そのような状況を、災害時研修や傾聴講座を開催し、支援体制を整えることで解決したいと考えた。

２　事業の概要等

＜事業内容＞
外国人・支援者に対する災害時研修
⇒７月２５日　企業からの依頼により、ベトナムの技能実習生と企業側の指導スタッフに向けて、居住地及び職場等のハザードマップの確認と注意するポイントのほか、起震車、煙、ポリ袋クッキング、土嚢の積み方、ロープワーク等の体験を実施。必要なことを伝えること、楽しみながら身につけることの２つを重視した研修にした。

３　事業体制

運営スタッフ（常勤）…2 名　（ボランティア）…2 名

４　事業の成果と課題

＜成果・効果＞
◆ 効果としては、ポリ袋クッキングや土嚢、ロープワークなどの遊びながら実践に役立つ研修としたことで、言葉の壁をあまり感じることなく実施することが出来た。その中で、水害が実際に起きた時、何を合図にどこに逃げればよいのか等を早速企業の指導スタッフと共に話し合われており、災害への防災意識を持っていただけたことはとてもよかった。
◆ コロナの感染が広がる中での実施であったため、コロナ対策を行い実施したことはもちろん、感染症といかに向き合うかについても、情報を共有することが出来た。

＜課題と今後に向けて＞
コロナ禍で、実施を希望されていた企業からキャンセルが入るなど、翻弄される場面が多かったが、こういう時だからこそ新たな形の研修を考えていかなければならないと感じた。

＜写真＞

ポリ袋クッキングでお菓子作り	ハザードマップを学ぶ	ロープワーク競争

パナソニック基盤強化助成

事業名：見過ごされているまちの課題に向き合い、共感される活動を行うＮＰＯを目指した組織診断
予算総額： 870,000 円
受託期間：２０２０年１月～２０２０年８月

１　事業の趣旨

＜事業の背景と課題＞
NPO 立ち上げ当初、京都府からの受託事業に依存する中で、何のための NPO なのか、何を目指しているのか、誰のための NPO なのかなどといった疑問を持つこともなく、受託事業がより良い形で出来ることだけを目指していた。
中間支援団体（当時の意識としては行政との中間支援）の受託できる事業が減った３年ほど前から、まちに目を向けることでこのまちの抱える課題を明確に感じるようになり、様々な事業を通して、今、「誰と・何を・何のために・未来のどのような姿を目指してすべきか」を考えて事業を行うようになり、これらの課題に向き合うためには①ミッションが共感できるものになっていないこと　②共に活動してくれる人が絶対的に足りないこと　③資金集めのまずさ　④理事・監事・会員等の本来果たすべき役割が明確でないなどにきちんと向き合い、現在の組織の現状を把握したうえで、組織の基盤を強化することが必要だと感じ、この事業への応募を決めた。

２　事業の概要等

＜事業内容＞
〇診断の目的：見過ごされているまちの課題に向き合い、共感される活動を行う NPO であるために、弱みを改善し、強みをさらに伸ばしていくこと
〇診断項目：　「ミッションの見直し」「中期ビジョン・中期計画の策定」「理事会・事務局の強化」「資金調達力の強化」「活動協力者の増加」に重点を置く
〇診断方法：NPO マネジメント診断シート（自己分析）、第三者による診断
〇診断結果の分析方法：SWOT 分析（内部環境分析と外部環境分析を含む）
〇診断に参加する対象者：「組織基盤強化プロジェクトチーム」（理事３名、監事１名、スタッフ１名）
〇今年度の実施内容
4 月～8 月
コンサルタントのアドバイスにより、役員体制を見直し。理事の数を増やし、役員メンバーを刷新。（それぞれの役員の役割を明確にすると共に、戦略的会議・執行理事会等の導入を目指す）
･総会を経て、新役員就任
･コンサルタントからは、理事会・総会の在り方等についてもアドバイスをいただく。

·役員体制見直しと組織基盤強化実施にあたり、その基礎となる定款の見直しを行う。
·評価・SWOT 分析等をもとに、コンサルタントと新役員で議論を重ね、その結果をクロス SWOT 分析に落とし込み、改善策・解決策・具体案等も検討。
·具体的な改善策・解決策等をもとに組織基盤強化計画を策定。緊急性、実施可能性などにより優先順位を決め、計画の実施スケジュールを立てる。リモート会議等を通して、新理事や会員と組織基盤強化計画の目的や方法等を共有。
組織基盤強化計画の実行と並行して行うべき内容（国際交流機能のインキュベート、コロナ禍を見据えた事業・組織の変革、人育てと人・新事業のマッチング、中期経営計画の策定等）を決める。
また、ＨＰに新役員体制（役員の紹介）やミッションステートメント等を掲載。
９月２７日
設立１０周年記念式典を実施し、その際、新役員体制の紹介と「たんたん１０周年を迎えての転機～組織基盤強化と新たな挑戦」と題した宣言により、組織基盤強化への決意表明を行う。
また、記念冊子を作製・配布し、役員・活動の紹介を行う。

＜成果と今後の取組＞
〇助成事業全体としての成果
・この組織基盤強化事業に助成いただき、第三者（きょうと NPO センター平尾剛之様）にコンサルに入っていただけたことで、抜本的な組織変革を行うことができた。
・組織診断の過程で見えてきた課題の中で、今後組織基盤強化を行う上での基礎となる事項（定款の変更・新役員体制の確立・新たな情報共有ツールの試験的導入等）について、この事業の期間内に取り組めたことは大きな成果である。
・限られた期間で成果を上げなければならないという制約があればこそ、目標達成に向けてスケジュールを組み、集中して事業に取り組むことができた。
・１０周年の節目を迎える中で、新たな組織に生まれ変わるきっかけとそれを内外に知っていただく機会（記念式典の開催）を得て、当法人の目指す姿をこれまで繋がってきた人たちに示すことができた。
・理事体制の強化の一環である理事長の交代をきっかけに、行政（市長等）との会談の機会を得ることができた。これは今後の行政との協働・連携にとって、大きな前進である。
〇目標に対する成果
・ミッション・ビジョン・目的・目標・理念…等の持つ意味を役員・スタッフの間で整理・共有し、私たちの組織にあったものを創り、ＨＰに掲載した。
・それぞれの理事の役割を明確にした新理事体制を確立し、理事数を５名から１０名に増員。理事会を意思決定と業務執行の重要な機関と位置づけ、「戦略的会議・執行理事会」を導入。また、コロナ禍でも迅速に対応できる情報共有ツールの試験的導入。ＨＰに役員の紹介と役割を掲載した。
・旧理事等による自己分析、コンサルタントによるアドバイスを新理事体制下で共有・評価し、組織基盤強化における重点項目・優先順位等を決定、具体策を盛り込んだ実効性ある組織基盤強化計画が策定できた。また、ステークホルダーとのミニワークショップの機会、インタビューの機会を

出来る限り設け、地域の分野別ニーズや課題の把握と共に、これまでの事業の評価、今後の事業の見直し、コロナ禍での事業の変革等について検討した。
＜課題＞
〇事業全体を通して
・短い期間の中で、目的を見失わず、スケジュールに沿って実施することの難しさを感じた。
・予測していなかったコロナ禍において、当初考えていた方法を変更しつつ、最大限成果を上げていくためにはどうすれば良いか、試行錯誤しながらの実施となった。
・当初は組織診断が主な実施内容であったが、その過程でこのタイミングで変えるべき項目（新理事体制の確立、定款の変更等）が見つかり、それに多くの時間を要した。しかし、今ではその時間があったからこそ当法人の抜本的組織改革につなげていけると確信している。

〇次のステップに向けての課題
・役員体制の刷新を事業に活かすための具体的な方策を考えること。
・人と人との出会いや関係性を大切にすることが当法人の最大の強みであったが、コロナ禍においてそれをどのような形で実現していくか、新たな方法で強みを活かす手段をみつけること。
・今回の事業に関わっていただいた人たちや記念式典に参加いただいた人たちに、当法人の事業等に興味を持っていただき、参加してもらうための発信力や巻き込み力を養う必要があるということ。
・法人組織として、また、あらゆる貧困の解消を目指すNPOとして、組織基盤強化を図ることの意味と重要性を、すべての役員、スタッフが共有・認識したうえで実行に移す必要があること。
・外国にルーツのある子どもたちやその保護者、外国人労働者等が、経済的な貧困だけでなく、文化的、言語的、地域的、心理的（孤立や孤独）阻害を感じないための総合的な支援体制が必要であること。また、その支援体制を継続させる必要があること。
・他の組織、とりわけ行政との連携（体制）を如何にして実現していくか。
・上記を踏まえての中期ビジョン、中期計画の策定　等である。
＜変化＞
・この事業をきっかけに多様な人から様々な知識・知恵をいただき、外国人や外国にルーツを持つ人たちを支援する福知山市国際交流センター（仮称）の創設が現実的になってきたこと。また、この動きに大学生を巻き込めたことで、当法人に明らかな変化が生まれてきていること。
・このＮＰＯに関わっていると何かが生まれるという期待感を、新理事をはじめ会員等に抱いてもらえるようになってきたこと。
・スタッフをはじめ、関わってくれる人たちの活動における意識が変わり始めていること。
・新理事×新理事…がシナジー効果を発揮し、新たな価値を生み出してくれていること。
・ステークホルダーとのミニワークショップやインタビューをきっかけに、新たに活動に興味を持ってくれる人がいたこと。

＜今後に向けて＞
残念ながら、パナソニック基盤強化助成の継続支援は叶わなかったが、策定した組織基盤強化計画をもとに、着実に進めていきたい。

〇展望の全体像
＜目指す姿＞
多様な豊かさからの阻害要因を抱える外国にルーツのある子どもたちやその保護者、外国人労働者等のソーシャルインクルージョンを実現するために、組織基盤強化による国際交流機能の構築を目指すこと
＜方向性＞
住民に当法人の目指す姿を示し、共に協力して実現していくために、信頼を得ること、発信力を高めること
行政をはじめとする他機関、多様な人との連携により実現
受益者・若い世代等を企画段階から巻き込む

〇組織基盤強化計画に基づき、次の 3 項目に重点を置き、組織基盤強化を進める。
1.課題協議・意思決定プロセスの強化
＜方向性＞
理事会主導型の定款に沿って、法人の意思決定をプロセスに従って迅速に行い、業務を執行するための仕組みづくりに着手する
具体的には、理事会の運営方法（回数、時期、それぞれの会議の位置づけ、オンラインも視野に入れた課題の協議、意思決定のプロセス等）について、コンサルタントのアドバイスをもとに役員間で協議を重ねる
2.財務環境の把握及び適正化
＜方向性＞
新会計基準に合ったソフトの導入と専門家（税理士等）によるサポート
継続的な事業活動や法人の信頼性の確保など、健全な財務規律を確立させる
全体最適の考えのもと、事業の効率性・効果性を高める
行政からの委託事業が継続的に取れるような組織にしていく
新たなファンドレイジングの模索
3.人材育成と専門性の深化
＜方向性＞
コロナ禍で、地域の課題解決のため新たな視点に立った具体策を考案出来る人育て
能力・キャリアに応じたスキルアップができる体制づくり
地域を知った上で、全体最適・価値共創の出来る次世代リーダー、次世代プロデューサーの発掘・育成
参加したい、参加してよかったと思わせる事業の創設と魅力ある組織づくり

〇組織基盤強化計画の実行と並行して、国際交流機能のインキュベート、コロナ禍（with コロナ after コロナ）を見据えた事業・組織の変革、人と新事業のマッチングを実施
〇上記展望を見据えた中期経営計画の策定を行う

コロナ対策給付金関連

給付金等制度の活用（総額：2,464,000 円）

＜経済産業省＞

持続化給付金…1,579,000 円

家賃支援給付金…120,000 円

＜京都府＞

京都府休業要請対象事業者支援給付金…200,000 円

中小企業者等事業再出発支援補助金…61,000 円

※　コロナ感染防止商品の購入

新型コロナウイルス対策企業等緊急応援補助金…200,000 円

※　コロナ禍における新事業への対策

＜福知山市＞

家賃支援給付金…54,000 円

福知山市休業事業者応援事業支援金…200,000 円

＜福知山社会福祉協議会＞

新型コロナウィルス対策緊急支援「ふくちやま・こども等支援団体応援事業」…50,000 円

※　外国にルーツを持つ子どもたちへの支援の際のコロナ感染防止に活用

※給付金等は会計上では雑収入として計上してあります。

給付金申請支援（収入：168,000 円）

〇給付金・助成金等申請支援…１法人（168,000 円）　５個人事業主（うち２名高齢者　２名外国人無償）

＜感染防止対策写真＞

消毒液	マスク	体温計

※その他、パーテーション等を購入

10 周年記念式典

たんたん 10 周年記念式典
＜開催趣旨＞
たんたんのあゆみと現状、そして中期的ビジョンを明らかにし、組織基盤強化と新たな挑戦を宣言することで、より多くの方々にご理解、ご支持いただき、今後のさらなる飛躍を期するため、設立１０周年の一連の記念事業を実施。

＜開催日時＞
令和２年９月２７日（日曜日）13：00～16：30
＜開催場所＞
福知山サンホテル

4.内容
総合司会：足立　淳子　　ＩＴ・環境整備…四方　正道（SSG）・加畑　満久
〇記念式典
第１部
説明：足立淳子
挨拶：牧紀男理事長
来賓紹介・挨拶・メッセージ披露等： Panasonic 担当者、市長、議員
丹波・丹後ネットワーク１０年の軌跡と北部地域における戦略的展開
たんたん１０周年を迎えての転機～組織基盤強化と新たな挑戦：森田　洋行

〇フォーラム
（タイトル）「丹波・丹後地域の未来を考えるー奥京都の中間支援は取扱い注意！」
コーディネート：平尾剛之
パネラー
- ✧　牧　紀男　地域防災のあり方 with コロナ
- ✧　杉岡　秀紀　行政との協働と課題　中間支援組織連携　研究機関との連携　地域公共人材育成
- ✧　梅原　麗子　地域課題直接的解決を目指す他職種ネットワーキング
- ✧　寒竹　聖一　with コロナ時代の地域産業のあり方
- ✧　土佐　祐司　小規模多機能における行政との協働実践
- ✧　倉本　到　北部地域の情報収取と発信、情報共有のあり方ちょいロボット

終わりの挨拶：副理事長　森田　洋行

＜助成・協賛＞　※敬称略
助成：パナソニック
協賛：S.S.G（ステージス.タッフ.ガジマル）、株式会社むらいち福知山サンホテル、日本防災士会京都支部、近畿労働金庫、京都北都信用金庫、但馬信用金庫、京都丹後鉄道
※　S.S.G 様には、音響・映像等について、全面バックアップいただく
※　株式会社むらいち福知山サンホテル様からは、会場費を安価で提供いただいたほか、寄附をいただく
※　龍谷大学深尾様、京都防災士会様、

＜プレスリリース＞
　京都新聞、両丹日日（中丹振興局依頼）ＦＭ（福知山）

＜配布資料等＞
　パンフレット（Ａ５版８ページ）
　但馬信用金庫様より参加者の記念品のリュック
　各協賛者様よりパンフレット

＜コロナ対策＞
マスク（透明マスク）・非接触型体温計・非接触型消毒液
マイクは登壇者人数分用意（８本）
パーテーション６枚

＜参加者＞
現地参加者：スタッフを含め５０名
オンライン参加者：１５名

＜写真＞

司会　足立淳子理事	理事長　牧紀男挨拶と登壇	会場の様子

コーディネート　平尾様	新理事によるﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ	一夢庵様よりお祝いの品
京都府防災士協会様より	龍谷大学深尾様より	（株）DIY　STYLE 様より

※ その他にも、荻原さま、和田様よりお花を頂戴しました。

NPO 法人　京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金（前年度）

正会員（１口　1,000 円）２１名　18,000 円

寄附　1,634,571 円（うち　ろうきん笑顔プラスによる寄附 249,571 円　記念式典寄附 73000 円）

会議の開催

理事会の開催

日時 ……①令和３年３月２５日　②令和３年５月２４日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所（zoom）

出席者 ……①森田洋行、土佐祐司、足立淳子、東家零子（zoom 参加　牧紀男、杉岡秀紀、倉本到、森田浩三　顧問　眞下賢一）計９名

②現地参加予定（森田洋行、東家零子、足立淳子、土佐祐司、森田浩三、梅原麗子）
オンライン参加予定（牧紀男、寒竹聖一、杉岡秀紀）

内容 ……①２０２０年度各事業報告、２０２１年度事業の方向性

②２０２０年度事業報告・決算案、２０２１年度事業計画、予算案

通常総会の開催

日時 ……令和２年６月１３日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 ……森田洋行、足立淳子、森田浩三その他会員等（１５名）

委任状 …… ２名

内容 …… ２０１９年度事業報告、決算決議、役員改選決議及び２０２０年度事業計画の説明、定款変更

新体制での理事会の開催⇒２０２０年度より新役員体制に移行（理事１０名　監事１名　顧問１名）

日時 ……令和２年６月１３日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者　牧紀男、森田洋行、寒竹聖一、杉岡秀紀、倉本到、土佐祐司、梅原麗子、足立淳子、森田浩三、東家零子　他監事・その他会員（４名）

内容 ……理事の互選及び顔合わせ（牧紀男が新理事長として就任）

２０２０年度事務局体制

当 NPO の副理事長及び理事１名が通年勤務。臨時の業務がある場合、理事２名が応援、計４名体制で活動。また、必要あるときはアルバイトを雇用（又は他の理事・会員によるボランティア）。